

第3次武蔵野市地域福祉活動計画

基本目標・取り組み目標別 具体的な取り組みの実施状況等

本資料の作成方法等

- ・第3次地域福祉活動計画では、その進捗状況を管理する委員会の設置はなかったため、第3次地域福祉活動計画に記載された「具体的な取り組み」について、市民社協担当者により「取り組んできた内容」「今後の課題」を出し、それを基に市民社協職員による振り返りを実施した。
- ・この5年間のそれぞれの「具体的な取り組み」に対する記載のほか、4つの基本目標ごとにその取り組み状況等のまとめを記載した。
- ・それぞれの達成状況等について、記号（「A・B・C」や「できた・一部できた・できなかった」等）による表記も検討したが、計画の記載内容が数値目標や指標化されたような記載方法ではなく、その達成度を測る基準を明確に定めることが難しいため、文章での記載としている。
- ・また、「具体的な取り組み」として記載されているもののうち、【他団体の取り組み】として記載されているものについては、記載団体（民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、福祉公社、社会福祉法人武蔵野）に依頼し、記入いただいたものを記載している。

1 地域をささえる人づくり

- 地域の福祉に関心を持ってもらうための講座やプログラムは様々な形で企画・実施されているが、そもそも認知度が低い。
- 地域の福祉に興味を持った人が実際に活動を始められるような仕組みが必要。
- 福祉情報の発信は紙媒体を中心に行われており、近年では紙媒体以外の広報手段も積極的に活用されるようになってきているが、世代や対象に合わせた媒体・発信が行われていない。

（1）多くの人が地域の福祉に関心を持つ

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
福祉学習事業	○市内小中学校での実施校も増えてきたことで、多くの子ども達が地域福祉について考える機会を持つことができている。	・プログラムが高齢者理解のみとなっており、別事業の中で実施されている障がい者理解プログラムと一体的な実施も検討していく必要がある。
ボランティア講座	○入門的な要素を強めた講座（オリエンテーション）や趣味を活かせる講座を実施したことで活動会員の登録と継続的なボランティア活動に繋がった。	・講座自体が知られていない。より多くの方にも情報が届くような広報手段の検討が必要。

夏！ 体験ボランティア	○夏！体験ボランティアはボランティア体験プログラムとして学生を中心に多くの参加があり、地域の福祉に関心を持つ機会の一つとなっている。	・参加者が学生中心という事もあり、体験のみとなってしまう、その後の定期的なボランティア活動に繋げていくことができていない。体験後の活動にどのようにつなげていくか、社会人の参加割合を増やしていくとともにプログラム自体の見直しも必要。
お父さんお帰りなさいパーティ (おとばサロン)	○参加者の拡大をめざし、パーティやサロンの中で様々なテーマでプログラムを実施し、様々な広報媒体でのPRも行った。新規に参加された方の中からおとば実行委員として活動を始める方も増えた。	・地域活動やボランティアへつながることを意識したプログラムとしたことで、内容が一般的に関心の低いものになってしまう等、参加のハードルが上がってしまっている。地域活動に参加したことの無い人でも参加しやすい仲間づくり等のプログラムへの転換が必要。
市民社協 地域福祉活動展	○地域イベント等で市民社協のPRを実施	・実施できる体制の確保が必要

<他団体>

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
民生委員・児童委員の日PRイベント (武蔵野市 民生児童委員協議会)	○毎年4月に行っているPR活動は、平成28年に市役所ロビーから「コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれび」に場所を変えて実施している。啓発品やチラシの配布、パネル展示、子ども向けコーナー(塗り絵、輪投げ)を設け、家族連れを中心に広く民生児童委員の活動を紹介した。	・市外からの来街者も多い場所のため、「武蔵野市民」にPRできているかという点に関して、課題がある。民生児童委員に対しての関心が高まっているかどうかを把握することが難しい。
障害・高齢分野における市民への福祉啓発事業 (社会福祉法人 武蔵野)	○障害分野においては、地域支援センターが中心になっての障害への理解や住み慣れた地域での生活支援等を行ったり、山びこが中心となって市内のイベント参加(タワーズマルシェ、エコマルシェ、わくわくフェスタ等)したり、三鷹駅前開設しているhicobaeを運営している。hicobaeはご利用者の作成した作品を商品にし、販売する店舗を運営。展示スペースとして市内の団体に貸出も行っている。	・障害・高齢分野における市民への福祉啓発事業
デイサービス季節行事への参加 (高齢者総合センター デイサービスセンター)	○6月に手打ちうどんの会、8月に夏祭りを地域交流会として実施した。平成29年度には、うどんの会には20名の親子が、夏祭りには81名の一般参加者があった。地域に開かれた福祉資源、デイサービスとして、サービス内容をPRし、地域住民の交流の場を提供できた。	・一般参加者が、単に行事に参加して楽しむだけではなく、その先のボランティア活動や高齢者福祉等の活動市民となるような、更なる働きかけや仕掛けを考案する必要性あり。

<p>北町高齢者センターのボランティアの組織と活動</p> <p>(北町高齢者センターコミュニティケアサロン)</p>	<p>○日々のセンターの運営に関わる活動だけではなく、季節行事等にも積極的に協力してもらい、懇親会を通してボランティア同士の交流も図った。また、昨年開設された子育てひろばスタッフは全員ボランティア登録し、活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのボランティアに支えられた北町高齢者センターだが、ボランティアの高齢化、世代交代が大きな課題である。また、地域住民の活動の場の提供も役割の一つであると考えている。 ・今後、利用者とともに楽しめるような新しい活動方法を検討すると共に、子育てひろばとの世代間交流などを通して若いボランティアの育成に努める。
---	---	---

(2) 地域の福祉情報をわかりやすく発信する

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
<p>広報紙発行事業</p>	<p>○平成 27 年度より広報紙・HPに加えてフェイスブックの運用を開始しており、リアルタイムな情報発信とweb媒体の活用による幅広い世代への情報発信を進めている。</p> <p>○全戸配布の検討を行ったが、費用対効果などから実施しないこととした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代に合わせた広報媒体・発信方法についての検討が必要。 ・手に取ってもらえるような形態での発行も検討。設置場所の拡大。 ・WEB検索を意識した見出しや件名の付け方など。
<p>ホームページ情報提供</p>	<p>○同上</p> <p>○平成 26 年度にリニューアル。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<p>バリアフリー情報提供</p>	<p>○平成 27 年度に武蔵野市が「お出かけサポートマップ 2016」を発行した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市との情報共有や連携の充実。
<p>居場所づくり支援</p>	<p>○身近な地域の居場所づくり助成事業によって居場所自体は増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所を通じた福祉情報の発信については意識的に行われているとは言いがたい。職員だけでなく、担い手の住民も含めた意識的な情報収集と発信が求められる。

<他団体>

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
<p>奉仕団だよりの発行</p> <p>(武蔵野市赤十字奉仕団)</p>	<p>○年 1 回、奉仕団だよりを発行し、赤十字奉仕団の活動の紹介等を行っている。様々な活動の報告、団員募集の記事を掲載することにより、多くの方々に周知した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕団員や近隣の奉仕団に配付しているほか、市内各地域でも配布している。しかし、部数が限られているため、地域に広く周知が行われていない状況である。
<p>月刊広報の発行</p> <p>(武蔵野市福祉公社)</p>	<p>○毎月、福祉公社全体の機関紙「羅針盤」を発行し公社事業の紹介、福祉情報の発信を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙だけでなく、ホームページ等効果的な広報を検討、実施していく。
<p>おいじたく講座 おいじたく相談会</p> <p>(武蔵野市福祉公社)</p>	<p>○市民の方が今後の生活の備えとして知っておくべき情報、判断力が低下した時に利用する制度の説明をおこない、安心して生活していくための知識を持ってもらい、適切な制度利用に繋がった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方だけでなく、就労世代、子供世代の市民にも、両親や自身のための広報を行っていく方法の検討。

2 人がつながる地域づくり

- 近隣同士のつながりづくりは小さいエリア（通りごと等）での集会等、交流の場づくりが広がりをみせているが、集合住宅居住者との交流をいかに行うかが課題。
- 居場所づくりは様々な地域で広がりをみせており、人がつながる場として機能しているが、まだ少なく、場所の確保が課題。また、様々な居場所についての情報も整理されていないことで、認知されていない。

(3)「顔の見える関係」をつくる

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
ボランティア フェスタ	<ul style="list-style-type: none"> ○市民活動推進課が実施するNPOアワードとの共催など、別事業での展開を検討するため、事業終了。 ○平成28年度より、フェスタに代わる事業としてボラカフェを開始。ボランティア団体同士の交流の場ともなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時だけでなく、団体同士が交流できる連絡会などの枠組みの検討が課題。
居場所づくり支援	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度より「身近な地域における居場所づくりの助成・支援事業」を開始した。市民社協が助成をしていない居場所も増えてきている。市民の関心も高く、相談が増加している。 ○助成を受けずに自主的な活動をしている団体も増加している。それらの団体にも地域担当職員が相談対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成の有無関係なく、居場所や顔の見える関係づくりの活動に関しての情報が一覧で見られる冊子等がないのが課題。 ・このような活動の情報をいかに多くの市民に届けることができるかが課題。転入者への情報提供が課題。 ・手段が目的となってしまうように運営団体へ働きかける。
近隣同士のつながり づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社協を中心とした地域の活動の中で、近年は様々な形での住民同士が交流できる機会のための活動が広がってきている。 ○例えば、丁目よりもより小さな単位での地域集会やご近所のつどい、マンション内の交流などの活動が増加している。特に防災をテーマに集まることで災害発生時のたすけあいには日頃からのつながりが大事であるとの認識が広まってきている。 ○趣味活動やフェスティバル、〇〇県を知ろうなど「共通の関心をもった人同士のつながり」の活動を実施し、初めてでも参加してみたいと思えるような会を実施している地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような集まりをいかに多くの人に知らせることができるかが課題。集合住宅が増加している本市においてマンション自治会の許可がなくチラシや広報紙を配布できない集合住宅も増加している。ポスティングされたチラシがゴミ箱に捨てられているなどの拒否も多くある。また、新聞を取っていない家庭の増加により、本会の広報紙ふれあいが自宅に届かない家も増えてきている。転入者への情報提供が課題

＜他団体＞

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
敬老福祉のつどい 友愛訪問 (武蔵野市 赤十字奉仕団)	○友愛訪問は75歳以上の市民を対象に健康長寿を祝う目的で実施している。対象者の自宅に訪問し、安否確認、声掛け、敬老福祉の集いの案内等を行っている。 ○敬老福祉の集いでは、当日の送迎バスの添乗や、会場での受付・場内誘導を行い、来場者に安心感を与えている。	・対象者が年々増加しているうえに、不在のケースが多く、何度も再訪しなければいけないケースが増加している。また、大型マンションの増加に伴い、セキュリティが厳しくなり、奉仕団員の訪問への負担が増えるなか、奉仕団員の高齢化も進み、今までと同様のやり方で事業への共催を続けていくことが難しくなっている。
地域住民、団体等への 情報提供 (高齢者総合センター 在宅介護支援センター)	○民生・児童委員との情報交換会、福祉の会への定期的な参加、テンミリオンハウスとの情報交換会を行い、必要な情報を提供するとともに、顔の見える関係づくりに努めた。	・定期的な情報交換を継続し、地域課題の共有と顔の見える関係づくりを行っていく。

(4) 人と人がつながる「場」をつくる

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
お仕事サロン	○29年度より境エリアでも実施。	・実施場所のキャパシティ。
居場所づくり支援	2 人がつながる地域づくり (3)「顔の見える関係」をつくる に記載の内容を参照	・居場所をやってみたいが「場所」がないという相談も多い。本助成は、会場費などにも使用できるが、家賃相当の金額ではない。持ち主の厚意により無料(または低額)で貸していただいている所が多い。 ・拠点となる「場」の開拓。

3 たすけあいのしくみづくり

- 地域福祉コーディネーターの設置には至っていないが、ボランティアセンターへの相談を含め生活課題への取り組みを他機関と協働で行うケースが増えてきた。今後、個別支援を更に進めていく体制づくりが課題。
- 地域での孤立を防ぐ取り組みは居場所の運営や訪問活動などで行われているが、コミュニケーションが取れない住民層や関わりを持たない住民へのアプローチが困難。

(5) 地域での孤立を防ぐ

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
東日本大震災 市内避難者支援事業	○市内避難者宅への戸別訪問による情報提供や生活状況の確認、交流促進を目的としたバスハイクなどの交流事業、むさしのスマイルや東京YWCAなど支援団体への協力を実施してきた。	・震災から7年が経過したが、未だに生活再建の目処が立っていない方や今後の生活に関する具体的な展望を描けない方々がいる中で、市民社協として取り組めることの限界があ

		る。課題が多様化する中で個別の対応が求められている。
地域福祉 コーディネーター	○(地域福祉コーディネーターの設置はできなかったが)在宅介護支援センターや子ども家庭支援センター、VCMへの依頼ケースなどから、生活課題を抱える市民の相談ケースが市民社協にも寄せられるようになってきた。	・今後、個別支援への取り組みを強化していくにあたり、十分な人員体制が組める保証はない。そのため、その対応にも限界が出てくることが予想され、市民社協として取り組んでいきたい(取り組むべき)ことと、業務量との兼ね合いで担当職員にかかる負担が増加することが懸念される。
居場所づくり支援	○近隣の方々が気軽に集うことのできる「居場所づくり」を促進するため、助成制度の創出や活動立ち上げや地域専任担当による立ち上げや運営支援を行ってきた。市民社協が実施した「居場所づくり助成事業」と同時期に武蔵野市においても高齢者を対象とした「いきいきサロン事業」を実施し始めたことで、市内において多くの居場所ができてきた。	・今後、より多くの居場所を展開するには、その実施場所ということが大きな課題の一つとなると思われる。

<他団体>

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
武蔵野市 独居高齢者実態調査 (武蔵野市 民生児童委員協議会)	○3年に1度の実態調査である健康福祉部高齢者支援課の依頼により個別訪問を行う。平成29年においては、訪問調査対象者1,352人に対し全戸訪問を行った。訪問の際に、対象者の様子で気になることや対象者からの質問・要望など、市へ知らせた方が良い事項については連絡票にて報告してもらい、必要に応じて担当部署が対応した。	・事前調査で返信がなく、個別訪問ができていない方のなかにも、地域で孤立してしまっている人は存在する。そういった方に対して、どのように地域のなかでかわり、孤立を防ぐことができるかを考えていく必要がある。
友愛訪問 (武蔵野市 赤十字奉仕団)	○戸別訪問をした際に、安否確認、声かけを行っている。本人やご家族に直接会い、高齢者の様子を知ることのできる貴重な機会である。また、訪問を続けることで関係を構築し、必要に応じて在宅介護・地域包括支援センターや民生児童委員へつなぐなど、地域における相談窓口のひとつとなっている。	・不在宅の増加やセキュリティの厳しい大型マンションの増加など直接会う機会を設けることができないことで、様子が把握できず、孤立する高齢者の増加が懸念される。
社会活動センター事業 (高齢者総合センター 社会活動センター)	○社会活動センターで開催する講座やイベント、自主グループ活動への参加を促し、仲間作りや社会参加のきっかけを提供する。	・事業の広報について市報や広報誌、館内掲示等で行っているが、「知らなかった」「どこに掲載されているかわからなかった」等の声が募集の度に聞かれる。もっと効果的に広報できるよう、検討が必要。

(6) 様々な「テーマ」を通じたたすけあいのしくみをつくる

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
ボランティア コーディネーター	○ここ数年、生活課題に対するボランティア依頼が増加してきていることに伴い、それらに対応する仕組みづくりを検討するため、平成 30 年度から大野田エリアを対象に、モデル事業として「猫の手ボランティア」を実施している。モデル事業終了後には検証や整理など、事業化に向けた検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業化にあたっては、地域社協などの地縁的な活動とするのか、登録ボランティアの活動とするのか整理が必要。 ・また、それに伴い地域専任担当とボランティアセンター担当との役割分担や情報共有の方法など、内部における整理も必要となってくる。
地域福祉 コーディネーター	○(5)と同様。	・(5)と同様。

<他団体>

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
障害・高齢分野における地域情報の共有や相談連携体制の基盤づくり (社会福祉法人 武蔵野)	<p>○障害分野・高齢分野ともに、どうしても制度に基づいた相談支援体制になっている関係で、相談支援ケースの家族等に他分野に関するニーズがある場合には、両分野の相談支援等職員が連携して取り組んでいるのが実情である。</p> <p>○地域情報に関連しては、障害分野が全市的な動きをしていること、高齢分野がそれぞれの日常生活圏域での動きをしていることから、日常的に地域情報の共有の有効性があまり見られていない。</p> <p>○また、自立支援協議会の参加や「あったかまつり」の運営により各種団体関連機関と連携、情報の共有は図ってきた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人として、改正社会福祉を意識して、地域公益活動(社福による地域貢献)と地域共生社会(地域福祉の推進)にどう取り組んでいくか、そして、そのために法人が障害分野と高齢分野とが制度の垣根を超えて取り組んでいく方向性を示し、その実施体制を作っていくことが課題である。
「地域ネットワーク会議(仮称)の組織(高齢者総合センター在宅介護支援センター)	○エリア別地域ケア会議を開催し、共通の課題を出し合い、課題解決に向けた話し合いを行った。つながりを意識的に作っていく必要性について確認し、さらに多機関とのつながりを深めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もエリア別地域ケア会議を開催し、ネットワークを構築していくとともに、地域課題のあぶり出しと解決方法について、話し合っていく。
社会貢献型市民後見人育成事業(仮称) (武蔵野市福祉公社)	○平成 27、28 年度は、近隣 7 市合同で、社会貢献型市民後見人養成講習を実施、5 人の市民後見人を養成した。平成 29 年度はフォローアップ研修を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に合同で養成講習を実施する予定である。被後見人とのマッチングについてのガイドラインを検討。

4 市民ニーズに応える市民社協の運営

- 地域の福祉活動を支えるための財源である募金・寄付・会費は減少しており、今後は自主財源の確保が最優先の課題。
- 自主財源の確保のため、これまでにイベント等の取り組みも行ってきたが、市民社協そのものの認知度が低い。
- 増え続ける業務に対応できる事務局体制の強化が必要。

(7) 地域の福祉活動をささえる

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
地域社協活動費助成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社協と共に協議を行い、「基本助成額＋各地域の世帯数に応じた加算額」へと上限額を変更 ○市民社協の前年度新規入会者数に応じた助成金の交付を廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・募金、会費等、財源の減少をふまえた適正な助成内容の検討
地域社協活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社協に対する支援の一層の充実を目的として、市内3圏域に1名ずつの「地域専任担当職員」を配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務量の増加に伴う地域担当職員の業務内容の精査、職員の増員に向けた検討 ・人材の確保 ・地域社協の活動拠点整備等
武蔵野地区配分推せん委員会 ボランティア・市民活動団体助成	<ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンテーション等の審査による、市内ニーズに応じた共同募金（赤い羽根・歳末）の配分を継続実施 ○重点推進事業を設定（V助成）し、後に身近な地域の居場所づくり助成に移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・市と共に設置する「地区協力会あり方検討会」による、募金の集め方等の検討 ・募金・寄付の減少をふまえた適正な助成内容（助成額、審査基準等）の検討
地域福祉コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ○設置に向けた市との協議を試みたが、生活支援コーディネーターの設置に伴う役割整理等の課題により、保留となる ○地域担当の業務を在支等へ説明 ○地域担当の業務内容の記録・集計 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5期地域福祉計画をふまえた各種コーディネーターの役割整理、及び設置に向けた検討

(8) 人や団体同士をつなげる

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
ボランティアフェスタ	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアフェスタは廃止 ○平成28年度より開始したボラカフェでは、ボランティア団体等のPRを兼ねたブースの設置やイベントを実施 ○助成金交付式で交付団体の交流実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボラカフェ自体の認知度は上がりつつあるが、更なる参加者の拡大のため、アクセスしやすく人目に付く場所での開催も検討する必要がある。
大学間ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ○市内2大学3サークルによる定期的な会議を行い、合同イベントやボランティア活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域の大学の参加によるネットワークの拡大を図る。

施設ボランティア 懇談会	○ボランティア受け入れ施設のボランティアコーディネーターやボランティア担当者を対象にボランティア受け入れに関する研修を実施したり、担当者同士の情報交換の場を設定した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネーターを専任で設置している施設が少ない ・参加者を増やす
地域福祉 コーディネーター	○地域福祉コーディネーター未設置のため、実績なし。	・(5)と同様。

(9) 市民社協の経営基盤を整備する

事業名	取り組んできた内容	今後の課題
自主財源・ 会員の増加	<ul style="list-style-type: none"> ○自動販売機の増加 ○「会員制度改革 職員による検討報告書」を策定。具体的な取り組みとして記載した市民社協主催バザーや、会員アンケート、LINE スタンプの作成等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員特典の検討、寄付金等の具体的な数字(金額)目標の設定、払いやすさの検討等、市民社協の経営基盤強化に向けた取り組み
市民社協のPR	○むさしのFMにおける時報クレジットCMの実施、市民社協 Facebook の開設等	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい全戸配布、市民が集う場所(人通りの多い場所、各種イベント等)でのPR、出前講座の実施等
市民社協社屋	○福祉公社との北町事務所の共同購入。交通便の良さを活用し、幹線道路側に向けた広報物の掲示や、市民社協会員を対象とした印刷機の貸出等による地域活動支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動拠点としての機能強化(会議室の貸出等?)
社協発展・強化計画	○計画策定に向け、全事業における課題の整理や、今後の方向性の検討等を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次地域福祉活動計画や地域包括ケアの推進を見据え、市民社協としての方向性を示した計画を策定